

## 本目次集を利用される方へ

### 目次集の目的と掲載内容

本目次集では、日本鳥学会の学術誌、「鳥」創刊号から「日本鳥学会誌」50巻までの目次を並べた。しかし単なる「目次」の復刻版ではない。本目次集は本学会ならびに会員の90年間の研究成果を今後の研究に活用するための情報源（reference book）と位置づけた。このため、学会誌に掲載されたすべてのタイトルを取り上げてはいない。取り上げたのは、原著論文、総説、短報、観察記録に相当するもので、まとめて「学術報文」と呼ぶ。学会の諸活動報告、学会や学界に大きく貢献された先人への追悼文、業績集なども、載録を見送った。

### 本目次集の構成と内容

本書は5頁から始まる目次集本体部と、それに続く各種索引部とからなる。

上のような方針で選んだ報文は1501篇に及び、古いものから順に「報文番号」をつけた。各報文では報文番号、日本語の報文表題、著者名、開始頁が続く。表題だけでは内容が判りにくい場合には、その下に〔 〕入りで、キーワード、対象となる鳥の和名や学名、それ以外の「注」などを適宜付け加えた。

**報文番号：**注や各種索引では、対象となる報文をその報文番号だけで表してあり、本書を利用する際にもっとも重要な数字である。

**報文表題：**和文報文は実際の掲載タイトル、英文報文は和文抄録などの邦訳タイトル、それがない場合のみ掲載号和文目次でのタイトルを採用した。報文表題の中の漢字や仮名遣いは原則として現代表記に改めたが、固有名詞には旧字を残した場合がある。海外の地名の漢字表記も、多くはカタカナ表記に改め、それでは原文との違いが大きすぎるものは旧漢字表記に続け〈 〉でカタカナ表記を補足した。また、漢字や旧仮名遣い表記の鳥名も、原則カタカナ・現代表記とし、漢字表記を残す場合は、カタカナ・現代表記を〈 〉に入れた。

**著者名：**原則として、報文のタイトル部で使われている表記を（旧漢字もそのまま）採用した。外国人著者の場合、“family name” + “,” + “first/given (+middle) name”の順にアルファベット表記した。漢字文化圏の外国人著者については漢字表記のあとにアルファベット表記を（ ）内に示した。

**開始頁：**号単位で1頁から始まるものはそれに従い、号単位での頁番数と巻単位での通し頁番数とが併記されているものは、通し頁の頁番数を採用した。ごく一部に、巻数が変わっても通し頁が前巻の続きになっているものがあるが、原典にあたる時に紛れない形での表記に努めた。

第6巻30号までは右綴じ・縦書きのため、英語論文は、同じ号の後ろから横書きで始まり、「後附」の後に巻単位で英語論文だけの通し頁数がうってある。

**キーワードその他の補足欄：**補足欄を設けたのは、表題からは報文の内容が判りにくいものだけである。掲載されている鳥の（亜）種名は最大でも10種程度とした。「補足欄」がない報文では、和名・学名いずれも示していない場合がある。編集者が必要と考えた説明は「注：」に続ける形とした。

**鳥（亜）種名の扱い：**古い時代の報文には「二三鳥類の…について」という表題で、ときには20種近くをとりあげているものがある。また、ある地方の鳥類相、鳥類目録、採集目録などでは、数百種に及ぶ場合もあるが、すべてを掲載することはできず、その必要もない。このような報文の場合、表題と「補足欄」では10種程度を限度とし、それ以上の種数を扱っているものは、新記載の属、種、亜種名やとくに重要な種名のみを示した。なお、表題や補足欄には示していないが、10種程度の学名と和名を索引でのみ取り上げている場合がある。これらは、索引にある種名が表題にも補足欄にも見当たらないが、報文中には取り上げられているので、参考にしてもらいたい（※同様の扱いはキーワードにもあてはまる）。

原報文で使われている和名や学名が、最近のものとは異なる場合、和名の最後には“#”を、学名の最後には“\*”をつけてある。これらは鳥名に関する2種類の索引で、最近の表記が判るように示されている。

学名は、研究の進展や研究者の見解により、異なることがしばしばある。「最近の学名」といった場合も、1つの学名にすべての鳥学者が納得することはないであろう。そこで、「補足欄」や索引では、日本鳥学会員にとって、文献を捜す際にもっとも利用しやすい、日本鳥類目録改訂第6版（2000年）採用のものを併記した。外国産の（亜）種についても、各種のハンドブックを参照して、日本鳥類目録改訂第6版との矛

盾が少なく、また、分類体系自体、より適切と考えられるものを併記した。学名の変遷については、いわゆる「J. L. Peters の Check-list」(1931~1987年；全16巻)を参考にした。古い時代の亜種の和名は報文中のもの、当時の日本鳥類目録のほかに山階(1933~1941年；日本の鳥類と其の生態)を、外国産の種の和名は山階(1986年；世界鳥類和名辞典)を参考にした。

各種索引について：索引部には、和名-学名索引、学名-和名索引、事項(キーワード)索引、著者索引をつけた。索引では該当する報文は報文番号のみで表してある。

### 本目次集の利用にあたっての注意

本書は「鳥」「日本鳥学会誌」に掲載された報文の内容を示し、また索引を使って利用者が関心のある報文を捜すためのものである。表題の表記が掲載誌上のもとは一部異なる場合があり、英文報文でさえ英文表題が示されていない。このため、本書に掲載されている情報だけでは、執筆中の論文の「引用文献」欄にそのまま転載することはできない「不便な」ものになっている。本目次集に掲載された報文を利用者の論文中で引用する場合は、原典の報文の表題と内容をきちんと確認していただきたい。

検索を効率よく行うために、本書刊行後あまり時間をおかずに、学会ホームページ(<http://wwwsoc.nii.ac.jp/osj/>)上にも公開されるので、両者をうまく使い分けていただきたい。

本目次集をご覧になってバックナンバーの購入を希望される方は、学会事務局(〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1 東京大学大学院農学生命科学研究科生物多様性科学研究室気付 日本鳥学会事務局；TEL 03-5841-7541；FAX 03-5841-8192；E-mail [osj@lagopus.com](mailto:osj@lagopus.com))にお問い合わせねがいたい。

また、特定の報文のコピーの入手については、大学図書館・国会図書館などを通しての申込みのほかに、本会が学会誌や寄贈・交換雑誌を寄託している国立科学博物館新宿分館図書室(〒169-0073 東京都新宿区百人町3-23-1；TEL 代表03-3364-2311；FAX 03-3364-7104)に直接申し込み、送料・コピー代を私費払いで入手することもできる。申込方法の詳細は鳥学ニュース72号(1999年8月)にはさまれていた「日本鳥学会委託雑誌目録(1999年7月現在)」または国立科学博物館新宿分館図書室のホームページ<http://www.kahaku.go.jp/sinjuku/library/index.html>を参照のこと。ただし、あまり多数の注文には応じきれない場合がある。★学会事務局では、コピーサービスはいっさい行っていないので、ご注意ねがいたい。